



平和をつくる方法とは？

令和4年10月発行(昭和51年12月1日発行)

平和とSDGs 目標16 平和と公正をすべての人に



今も各地で紛争や戦争は起こり続けています。武力衝突が行われている状況下では、貧困や飢餓、保健衛生状態の悪化、人権侵害など、SDGsのあらゆる目標の達成が阻害されています。世界的な平和と公正に関する問題を解決するための目標が、ゴール16「平和と公正をすべての人に」です。

●世界の現状●
世界のどこかで、5分に1人
子どもが暴力で亡くなっています。
紛争の影響で学校に通えていない
子どもたちは、2,700万人います。
出典：UNICEF ホームページ



戦争は、すべてを奪う最悪の暴力です
遠い国の出来事でも、私たちの暮らしに影響を及ぼします

争いのない平和な社会を実現するために

ゴール16の主なターゲット

- 16.1 暴力と暴力による死者をなくす
16.2 子どもに対するあらゆる暴力をなくす
16.3 すべての人が、平等に、争いを解決するための裁判所などの司法を利用できるようにする
16.4 資金と武器の違法な取引を減らし組織犯罪をなくす
16.5 汚職や贈賄(わいろを贈る)をなくす
16.10 情報を公開し、基本的自由を保障する

目標達成へのポイント

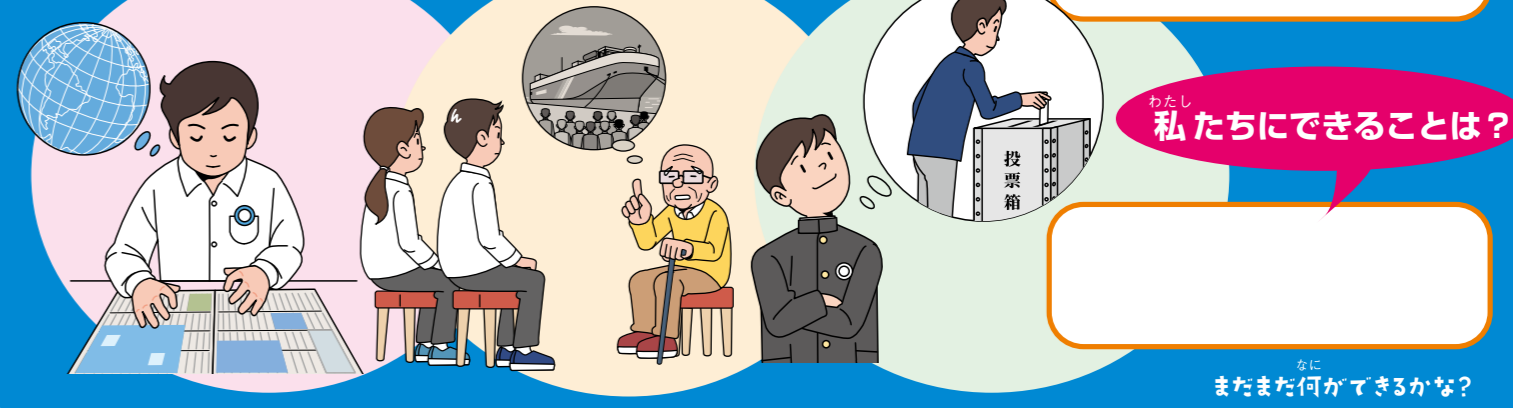
- 弱者をつくらない社会を
対等な経済活動を
社会の腐敗をなくす
戦争で儲けることをやめさせる

持続可能な未来のために解決しなければならないこれらの問題は、SDGsの目標16以外のさまざまな目標と関わりがあります。

平和な世界をつくる私の方法

- 知る
考える
行動する

- 世界で今、どんなことが起きているのか、いろんな情報から知る
なぜその戦争が起こったのか、なぜ止められなかったのかを調べ、考える
歴史を学び、過去の戦争が今も残している問題を調べてみる
平和に関連する本を読んだり、映像を見たり、体験者の話を聞いたりする
難民の人たちを募金や物資集めなどで支援する
SNSなどで平和を呼びかける
戦争で傷ついた人、難民になった人のために何ができるかを考える
相手の大切なものや気持ちを聞いて想像してみる
大人になったら選挙に行こうと思う



知っておきたい、長野県内に見る戦争の記憶

満蒙開拓平和記念館(阿智村)

満蒙開拓とは、満州事変から第二次世界大戦終戦までに、中国人から取り上げた土地に、30万人とも言われる日本人が入植した当時の国策です。長野県は満蒙開拓に一番多くの人々を送った県で、終戦時には多くの犠牲者を出しました。資料館には入植から逃避行・集団自決・収容所の生活、そして中国残留孤児までの歴史を見ることが出来ます。

松代象山地下壕(大本営跡)(長野市)

第二次世界大戦の末期、敗戦色の濃くなった日本は、本土決戦に備え、東京にあった大本営(軍の最高司令部)を長野市松代に移転しようと計画し、大地壕を掘りました。労働者として多くの朝鮮や日本人が強制的に動員されたと言われていて、貴重な戦争遺跡として一部が公開されています。

安曇野ちひろ美術館(松川村)

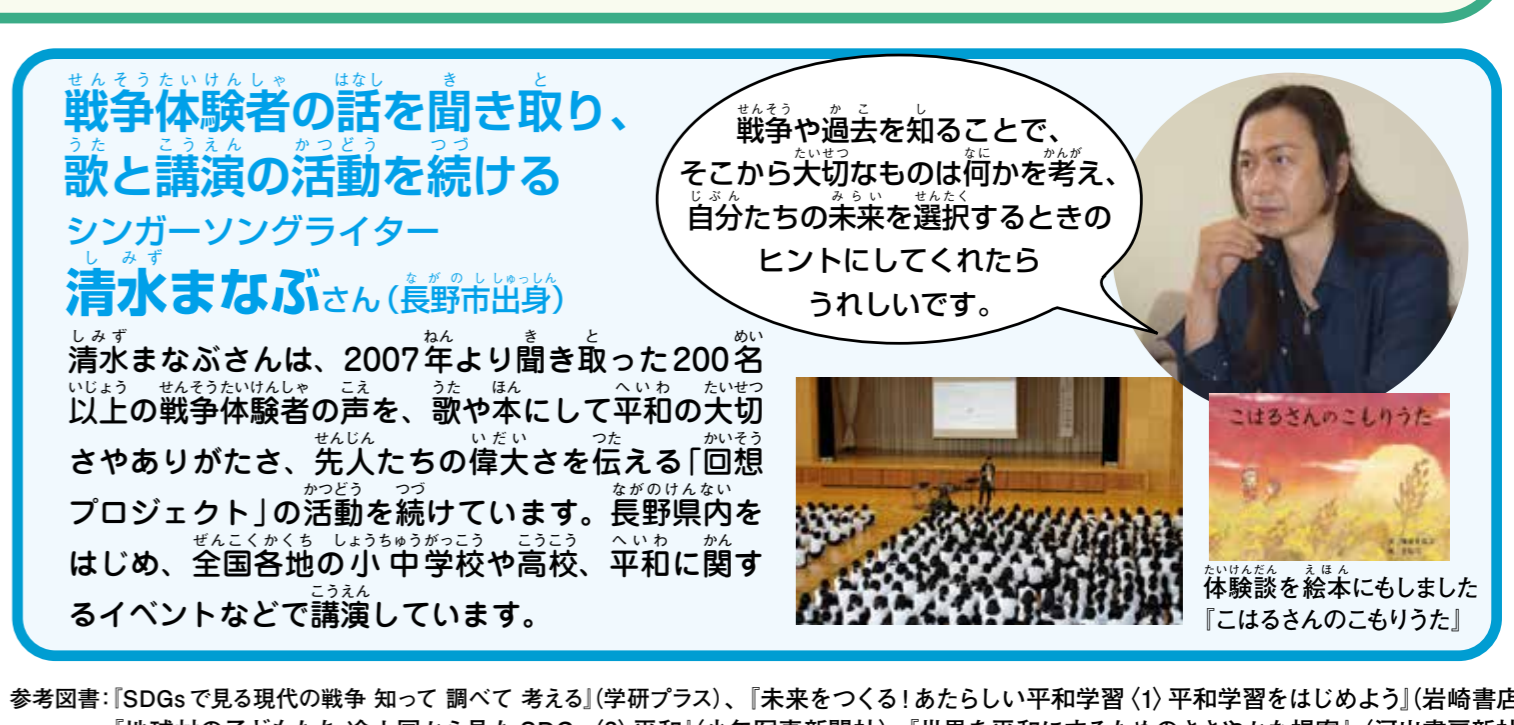
絵本作家いわさきちひろは、青春時代に戦争を体験し、「二度と戦争を起こしてはならない」と、平和な世界の実現を願っていました。その思いは、ちひろのすべての作品の根底にあります。安曇野は、信州出身の両親を持つちひろにとって、幼い頃から親しんだ心のふるさとでした。なかでも、美術館のある松川村は、戦後、両親が開拓農民として暮らした土地で、ちひろは折りにふれてこの地を訪れ、多くのスケッチも残しています。

平和と戦争あれこれ

軍隊を持たない国ってあるの?
戦争のねだんは?
1941年から始まった太平洋戦争で、日本は国家予算の8割を戦争に使いました。そのほとんどは兵器の購入にあてられました。

戦争で故郷を追われた人は世界の100人に1人
2021年末時点で、紛争や迫害により故郷を追われた人の数は、8,930万人となりました。世界の100人におおよそ1人の割合です。そして今、ウクライナ侵襲などの人道危機により、1億人を超えています。

戦争体験者の話を聞き取り、歌と講演の活動を続けるシンガソングライター 清水まなぶさん(長野市出身)
清水まなぶさんは、2007年より聞き取った200名以上の戦争体験者の声を、歌や本にして平和の大切さやありがたさ、先人たちの偉大さを伝える「回想プロジェクト」の活動を続けています。長野県内をはじめ、全国各地の小中学校や高校、平和に関するイベントなどで講演しています。



各校のボランティア・地域活動の紹介

立科町立 立科中学校

小中高で連携し、地域に貢献

豊かな自然を守るため、伝統を受け継いでいく!



立科中学校では、近くに立科小学校、藝科高校があり、連携しながら多くの活動を行っています。三校が連携し、継続的に取り組んでいる活動に「三校清掃」があります。平成14年度より、当時の児童・生徒の自主的な発案により、三校の最上級学年が集まり、立科町にある県指定天然記念物笠取峠のマツ並木の清掃を行ってきました。
「とても広く暑く、大変でした。でも清掃が終わった後はすごくきれいになり、達成感がありました」「このマツ並木が県の天然記念物と知り、とても有意義な活動ができました」と充実した時間になりました。
また清掃と一緒にアカマツの植樹にも参加しました。近年、地球温暖化や松くい虫の被害により、アカマツは減少しましたが、現在は148本まで回復しました。今後も、地域の一員として参加したいと考えています。

私たちの学校では、こんな活動をしています。

各校のボランティア・地域活動の紹介

文化学園長野中学校

4R 廃油せっけんプロジェクト

手作りせっけんで、海の豊かさを山の私たちから守る!



ユネスコスクールの本校は、毎年 Nagano SDGs Project に参加し、環境問題の4R活動(Reduce: 減らす、Reuse: 再利用、Recycle: 再生、Refuse: 断る)を行っています。
今年度は、廃油や市販洗剤による環境問題に取り組んでいます。「スプーン1杯の廃油の浄化にバスタブ20杯分のきれいな水が必要なこと」「洗剤の原料であるパーム油が熱帯雨林の破壊や児童労働などにつながっていること」を知り、家庭で出る廃油を回収してせっけんを製作しました。廃油せっけんを試したところ、洗剤よりも油がよく落ち、品質も問題ありませんでした! 製造過程で洗剤を使わなくなったことも大きな収穫です。
一方、「廃油せっけん製作時に油汚れを伴うこと」「食用油の原料である大豆や菜種の生産効率や、パーム油より悪いこと」など新たな課題も見つかりました。また、廃油せっけんや市販洗剤の環境負荷の違いには様々な見解があります。水質調査を行い、どのように使えば環境にやさしいのかを考えていきたいです。
今後も全校生徒が分担して活動に関わりながら、地域イベント等で水質問題の啓発活動をしていきます。

チャイルドライン
フリーダイヤル 0120-99-7777

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター

信濃教育会
〒380-0846 長野市旭町1098 TEL.026-232-6994

あなたのまのボランティアセンターへ行こう!

この新聞の発行には、みなさんの赤い羽根共同募金が役立てられています。